

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100487		
法人名	株式会社 育成		
事業所名	グループホーム育成会 長生の望・灯・楽 (望ユニット)		
所在地	釧路市大楽毛南4丁目6番8号		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvoyoCd=0174100487-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和6年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症が5類に移行した状況ではありませんが、感染が無くなってはいない状況です。当ホームも陽性者が数名出る事を繰り返しており、感染予防対策等できる事を確実にやっている所です。また、このような状況の中、閉鎖的にならないように対応をしていきたいと思います。防災に関しては、釧路市の大津波の一時避難場所として、ホームの屋上部分が指定を受けましたので、より一層地域との連携を重視し、地域に密着した防災の質を上げていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、太平洋大楽毛海岸沿いの住宅街の中に位置し、3階建ての建物からは阿寒の山並みを見ることができる。2階、3階がグループホームとして使用し、1階は多目的ホールとして地域住民の交流の場となっている。職業訓練校や精神科病院も隣接している。家族通信を2か月に1回発行し、事業所の様子を家族へ情報提供したり定期的に家族会を開催し直接のコミュニケーションを大切にしている。北海道グループホーム道東ブロック協議会と連携し他事業所との交換研修を開催し日々研鑽している。コロナ禍でコミュニケーションの自粛していた町内会との交流も昨年総会や盆踊りなどが開催され相互に参加し始めている。現在、地域の有償ボランティアを検討し当事業所と地域の方の関係構築のため参加協力を検討中である。現在利用者待機は10名であるが入居希望者には相談連絡等対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践力が少しづつついてきてはおりますが、共有の面ではまだ足りない点もあり地域密着につきましてもより一層取り組みに努めております。しかし共有する力はまだ足りない点もありますので、実践に向け努めております。	カンファレンスの実施時や事業所目標設置時、職員の問題行動時などに理念を再度認識・確認するように話し合いを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年、4年ぶりに町内会主催の盆踊り大会が開催され（ホームの駐車場）、入居者様は大変喜んで参加されました。	地域住民と共に4年ぶりに盆踊りやジンギスカン・野球大会を開催している。事業所の長年のわたる協力者がクリスマスにサックス演奏会を開催し交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会のイベント等に場所等を提供させていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外出場所等のアドバイス等受けサービスの向上に努めている。	会議メンバーは町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、訪問看護師等である。事業所の報告等の他に 委員より後見制度の話をしてもらおう等、事業所のサービス向上に繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当の方と定期的な連絡を行っています。	市の独自事業「おたっしゃクラブ」の実施依頼を受け検討中である。地域包括支援センター職員からボランティア情報を得て、有償ボランティア事業を検討中である。市担当者には事業所の情報を伝え協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けカンファレンスの際、話し合いなど実施しております。	身体拘束の研修時に職員が企画した台本に基づき、演技した内容をグループワークで意見を出し合い職員で検討するなど、身体拘束廃止、虐待、不適切ケア防止に向けて、定期的に委員会及び研修を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍にて資料を用いて研修を行い、レポートを提出している。		

グループホーム育成会 長生の望・灯・楽（望ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設けることが難しい状況ではありましたが、今後に向け取り組んでいきたいと考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、締結などはなかったが、現状の説明には納得いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見、要望は即座に対応している。	定例の家族会を通し、意見、要望の把握や家族の来訪時、電話、手紙等で入居者の近況報告の際に要望等を確認し運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等でまとめ実施しております。	職員に向けてのアンケート調査結果を月1回の管理者リーダー会議で報告し、出された意見等を取り上げたり、調整するなどして運営に反映させている。	厚生労働省からの職員管理シートをもとに個人面談による職員の気づきを活かす等、事業所運営に関する意見が活発になることを希望したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談等行い整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT、ビジネスマナーの基礎研修を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の相互間の活動が難しい状況ではありましたが、サービスの質の向上に向け日々取り組んでおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期に築く信頼関係はできていると思われませんが、ご本人様の安心の確保に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に迅速に対応させていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援計画、ケアプランの見直しを随時行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話から関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過で少しとりづらい部分もありますが、密に電話連絡を行い、関係性を築けるよう努めております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過であるため、支援させていただくことが難しい状況でした。	近隣の馴染み場所として恋問館や菩提寺、博物館、旧鶴屋百貨店跡地、釧路駅に利用者とドライブしている。長年の事業所協力者によるサックス演奏会を実施し利用者と馴染みの音楽を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌、塗り絵、様々なレクから関わり合いを多く持っていただけるよう行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性が切れた利用者様はおりませんが、相談・支援に際し務めさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思い、意向を把握し、可能な限り支援に努めております。	言葉では伝わりづらい利用者の意向を職員は良く観察して把握している。ソワソワしている利用者には声を掛けて外出を促し、野花を摘むなどして落ち着つきを取り戻している。チラシに広告が入ると声掛けをしてピザやチキンなどの購入希望を聞きおやつや食事に取り入っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの利用について担当者会議などで把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いたことを職員間で情報共有し周知・把握に努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等日々の状況やご様子などを見ながら職員間で周知し、まとめながら実施している。日程を決めた担当者介護を行っている。	利用者毎に担当者がおり、介護支援専門員とモニタリングやアセスメントを行っている。時には訪問看護師やかかりつけ医、薬剤師などの関係者と話し合い、家族に確認して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを確認し、定期的に担当者会議を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	最良の支援を常に探しながら多機能化に取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しんでいただくことをメインに行っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携の構築に努めております。また、受診の内容を周知、実践に取り組んでおります。	かかりつけ医に入居者の日常の様子を伝える他、地方からの利用者より相談を受けた場合は釧路市内の医療機関や訪問診療を紹介している。緊急時には協力医による適切な措置、訪問看護師への24時間365日可能な連絡体制が取られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内では看護職員がいない状況ではありますが、定期的に、また、特変が会った時には訪問看護師に相談させていただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリー、カンファレンスなど関係作りに努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携を図りながら、医師からの指示にて看取りの契約を交わしチームでの支援に努めております。	月二回の血液検査を実施し、終末期にそなえている。医師より看取りの方針が出た時点で家族に伝え、看取り期に伴う不安を解消すべく身体変化段階の情報提供、居室のドアをあける等、事業所の対応が理解できるよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様に合わせた緊急マニュアルの設置準備を行っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	カンファレンスの際、災害対策の資料に添って話し合いを行っております。	災害対策備蓄品として飲料水、食料、カセットコンロ、蓄電池、ソーラーライトを用意している。津波対策では3階屋上に垂直避難訓練を実施している。津波備品としてライフジャケットの用意をしている。事業継続計画作成は最終調整をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況を把握し、お一人お一人の尊厳を尊重し、気分を損ねないようことばがけを心掛けております。	プライバシー確保のために、トイレ誘導は本人の耳元で行っている。入浴時のコミュニケーションはプライバシーも保たれ人格を知るうえで重要視している。個人情報については事務所内の書庫で保管管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を大事に考え、利用者様と一緒に考えた支援をさせていただいております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が主役の生活構成、支援させていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント時にメイク等行って頂ける取り組みしております。		

グループホーム育成会 長生の望・灯・楽（望ユニット）

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事援助を行って下さる利用者様が多いので生き生きしている。	誕生会では該当者にリクエストを聞き対応している。四季折々の季節感を大切に、春の花見弁当、ひな祭りのちらし寿司、正月のおせち料理など工夫をしている。入居者のできる範囲で調理や下ごしらえ、食後の片づけを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カンファレンスの際、お一人お一人の状況を把握し、食事量等を調整し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医連携をとり行っている。 オーラルフレイルを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	提携の医師と連携して行っております。データ採取からパターンの把握分析を行っている。また、カンファレンスでの話し合いで状況を把握し、一人一人に合った取り組みを実施しております。	職員は出勤時に各利用者の生活記録から、排泄状況を詳しく確認して対応している。排泄自立支援の為に居室にポータブルトイレを用意して排泄量や色硬さなどから健康状態を利用者と職員が話し合うことがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、薬局の連携。食事の管理、生活サイクルをベースに予防、予測している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴について安全、安楽な支援を行っております。	入浴の時間調整は都度行っている。入浴剤の工夫をして香り等を楽しんでいる。浴槽入浴の他にシャワー浴や足浴などに対応し、湯上り後にマッサージを行うこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠環境の見直し、リラクゼーションを考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し協力の元、努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常に楽しみを探している。 コロナ過でもできる楽しみを探している。		

グループホーム育成会 長生の望・灯・楽（望ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で行えなかった。	外気浴を多く取り入れるため事業所周辺等の散歩や定期的なドライブ、買い物等に出かけている。気温上昇に伴い利用者の要望に応じてソフトクリームの喫食に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて管理。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リモート面会を行っています。また、LINEタブレットでの面会を実施しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住みやすいリノベーションを考えながらテーブルの配置換えソファの配置換えなど行っております。四季折々に入居者様の作品等を飾り、季節感を共有しております。	共有空間での気の合うもの同士の居場所作りやユーチューブによる人気番組の視聴、季節の飾り物や職員と一緒に制作した作品を展示するなどして居心地の良い共有空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫を生かしながら居心地のよい教養空間づくりに努めております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使い慣れた持ち物などを持ってきていただいております。	居室には馴染みの家具類等を持ち込んでいます。認知症状が進んだ利用者の異食、設置物との接触等安全確保のため家族の協力を得ている。職員の入室には声掛けをする等安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	セーフティーマネジメントをカンファレンス毎に行っており、より安全に自分の力が出しやすい環境づくりに取り組んでおります。		